

安保沖縄大学開学争勝利！

革命的全明全共闘の結成を克ち取れ！

スローガン

1. 大学改革準備委員会粉碎!
A 学長室専門委員会粉碎!
B 審査館の完全自主管理運営貫徹!
C 農学部闘争勝利!

2. 全明全共闘結成から全国全共闘連合結成を壳ちとり生字無期限リストを貫徹せよ!

3. 安保粉碎! 中綱闘争勝利!

明大學學生解放戰線

9/3

明大斗金、白間綠者

ともに永遠に語り伝えられるであろう。

しかしそれは同時に六〇年の年という時代的潮流を
と受け取ったものでもあった。『平和と民主

八月三日、參議院本願派に於ける「一分間
採決」をもつて該行成立していへた大原派中

しかし本筋の事の點共頭痛で、ついに死んで

以前に開催されたいた職員民主主義の石川からの取り組みへの代表選挙内閣が勧め評議會による教育監督的者の政策的自由のへきやねの政治的主導上げとしてめにに對しにこむけずかに民をも教へ育て、それをも標準にとづける政治的ラジカルズムをしか対置できなかつた。左岸里勤、實業運動のやや弱弱名であつた。

實にべの個当事の本末解は體念として、アル
ジアーノの、古きからの支體、兩體の學說を
許していく。古靈神的組合の立場と、その
中で組合是體をレガ秀吉がたれた後其内鬼の
體制化は、日本實本主義の源流を成る歴史と
を仰げる以外の何ものでもない。またそ
れ以前の石隈化は、他方、帝國軍事要塞の大
事みを握り、荷れざされた軍事的學生軍団との大
事も、さうしてその他の、日露戰争の

単偏派と体制内派の學生運動の分解の集約的表現であった。

六〇年以降、池田政治による高度経済成長政策は、骨軸運動のより一層の体制内納抱据

をも含め日本帝國主義体制の根柢をもつて藤
原へのバトンタッチを行なつてはいた。

条約へと昇格りとして東南アジア侵略を開始していったのである。そしてそのことは同時に

に国内の軍事、西洋、教育に強力組織的貢献成し、とりわけ大学教育の帝國主義的貢献成を大層の条件としている。丁刺所アハラ

① 厂史的位臵としての

ノルマニ

陸原連しに絶縁されると、麗香を主としたしながら農業連合していった。これがまでの再生運動の由で、より強めてまで「農業連合運動」の旗が新しい「生きる農業」すらもひいてはいるのである。とりわけ六〇年の年始、昭和新帝に於けるその大史は、群衆養育の死

学生運動は二つの時期と、激化しつつあるペトナム——東南アジア解放斗争と媒体とする衝撃反戦行動の展開へ由る、廟の論理

四
五
大

全共斗運動

出されざるを得ない、大衆の政治から陳述にある。だからこそ、一方では今日支配者の何のことを許容しない、強制的支配の實務の前に角筋会議約と前提とした限りでは朝えうはずがない、それらの本音が発表され、中で浮上する衆院の選挙に、ついに際限高にして達したとき、他方これらの大眾の暴怒的衝撃が、まともにこじらぬ民主制を歴史のゴミタメの中に捨てたり直捷に政治舞台の前面に躍り出してくるのである。それらの怒りが、一つの巨大力になり、網羅されたものが全共斗運動として全面開花したのには他ならない。

東大・日大斗争の発展過程は、所謂自発会運動ではなく、たく拒めないままでに自分の斗争を深化させていった。東京帝国主義で答解体制より日大古田体制打倒の斗争は、以前のいかなる大学斗争と到達し得なかつた。何故か全体の全面的斗争とその阶级性格を全ての大學生へ前に突きだした。大学自身からの階級還張を迫つていゝのである。つまり、金員初監制という極めて、あたかも学生会体が常に共同の利害を持ち得るかのように幻想を、能動的に破壊し、個別学園内に巻きした矛盾をより普遍化された階級矛盾へと深化させて行つた。(このことの最も明白な表われは、日大場自主規制路線の發展である) 大学立法が提出されてきた背景は、これらの大東大・日大斗争の實と、それが全国に波及していく過程を抜きにしては説り得ない。

て開始された明大ベリスト対戦は、これらが死をも、忍辱の苦楚を背負つて「何がこじねばならぬか」に。より格論するならば、大学立法そのものが形式的には公会通議を成立させるものであるが、——該段の多數を占めるアーリヨウア政治委員会は、自民党的意見が、立派に上り、而して決定されるものである限り、我々が斗いはこれら曰く家松力の階級的弾圧に耐えそれに対抗しうる階級的質をもつた團結と、その運動体建設が不可避の前提とされなければならないに至ったのである。つまり88年ごろ年に斗われた東大、日大斗争が終局的に帝曰主義個別秩序の底堅に破壊、解体にまで押し進められ、佐ト帝曰主义、内閣が自らから日々の大學紛争は、すでに個別學園内の問題ではなく、政治問題にまで発展したとし、明確に安保・沖縄、一切の大学斗争さえも起こそ得ぬのである。したがつて、大學完全立法紛争の開始は、同時に明大金井斗闘の開始宣言であり、その金井斗とは、三年ごろ音の傳から、あいそやうな大學立法を反対的組織としての数百の帝曰主義内閣編と最も主要な環として規定した。しかし、この收斂的、抑制的、而して明大、日大斗争があつたから、大學特別立法等と階級性抜きの呼びかけがブルーリヨウア階級性もさだしの君安立法を反対的運動に対するあまりにも多くの歪曲があつたことだ。

とりわけ、昨年度から、今年度にかけて我々は、全く質の運動と同時に我々の眼前に突きつけられていた。(音楽室を中心とするその運営の事が、未だ学習室内の何題として、一年半から継承されており、他方、明治大學がこれまで各大学争奪の陣地となる所の聲援が、明治大學に対する在籍的にかられて来た事に至る。具体的にそれほど、4月15日、田中斗爭の「二百メートルデモ」が問題一喝を意味する争奪の陣地に於て、警棒暴力の濫用(衝撃)によってこの学内乱に入りに表われた。

つまり、これらの三つの要素は、前者に屬する所と、後者は発展を一、個別支離との非妥協的決戦と二、その表現形態としての実質的争奪を生み出すまでには至らず得らなかったこと——それをもって大衆の意識を燃え立てるところが、出来得てしなかつたことに示されるように、總体として今日の階級斗争争奪の現状の未成熟に於てなりながらも、それが既成に表れられる階級的陣地の熱きこそ、争奪争奪を以て抜けじていた學友連絡と、活動家と、そして多くの学生大眾が始めで活むし慣だときがあった。このときこそ、大衆が更迭、四大斗争と、それに加えられた権力の政治的財産の奪取を試じて自ら危機的にではあれ、終結に迫る大斗争姿勢を表しはじめたのである。我々は、我々の前を後退せねばならぬつたのか。

さるに来る、四大に対する譲臣々、4月、蒙天放逐とこれを頂て、三月、三月投票場にゐれる奴才からその差遣して同開始と、それらがまるで三月、大學生法と抗争とした中止の際に至るためけられ行くとき、この二つの元詔義表の以降4月15日、「事件」にほかなりないことを、大阪府に籠めさせることのあり、斗争へののり度と、政治的暴走を押しのけての中止時に、大阪府向島憲政の破壊と、大學生の脅殺の爆發と、このときにこそ遂にしなければならなかつた。4月、大阪墨縛した團友は、しかし、アンド烈君の「大家の怒火」へと、斗争へののり度と、政治的暴走を押しのけての中止時に、大阪府向島憲政の破壊と、大學生の脅殺

で怒りの炎は燃されていったのである。

4・28斗争は、明大においては、28日、明のストライキをもつて半ば終らにわけたが、そのあとで今に付けると、雅庭社はまさに何に向ふべき道を迷ひ、何を行はずかうとした。たゞ、雅庭社は平日と何ら変わることなく通勤られたのである。

4・28沖縄斗争の終幕は別にゆずるとして、4・12「事件」は4・30回交へと引きつがれたが、次いで政治的焦点を失つたそ

われに4年位は重音をもつてテモ既とくべりながらも、30日時点では、むすか二音名にも満たない感覚をしかねるべくしてゐる。しかし同日中教習から元気皆用ひだして取ることによつて再び斗いの結果が加味され

我々は从此以後の耳のそゝ中継監査申り
大學治安立法紛糾して急務部斗争の充実

した基礎をもつて、必ず戦闘運転の技術をもつて競
争する者たる所以である。」と、この論述は、競走馬の
大倉が「如き」として「競う」として「競争する」
ことに、競走馬の「競争」の本質を述べたものであ
る。した運動選手たる競走馬が完全に戦闘運動の競争で
あるかと主張した、試論、競走馬の性成と、
クラス斗争奪冠競争を通じて、この「競り」
の成程は、可なりに口にはいひや紀載せば
において、バリリストと主張した戦闘運動
が、各クラス選手において次々にだされ
、それらが被る自分の立カネン、どうを分心してい
くという、明太における大きな察政の初期
前進を勝ちとったことに際的に表れてゐる

卷之三

前や一ツからのつづま

以上の過程で明らかになつたことは、政治スローガンとしてほゞのうちに主とあらうことができる。
のせつ年を経る間に中政黨第一大統治安立志務幹田園学園農利開農
學部競争性制であり

点、すなはち學、醫學、醫學部、體操
赤雲與相の問題点を大家的に論る方に
しへそれ以前には明うかにされていふ事
かゝたゞわれわれが明大斗争に決意を
するであつこ——このページ初めに

要求項目としては
①学生部廃止 ②处分撤回 ③寮の完全
自治権獲得 ④学館の完全管理運営校園

なわない」ということであり、改良斗争を斗う時にでも、その大綱的末起の中に、权力向徧さにあらいくて走して行くことであ

得 ③ 費用学部の再編粉碎 の健康の志を
学校側も西脇担当
以上は四大スマーガンと六項目要求として確認できるのではないか。
この会合半の総結化とすればすむわち政良が

る。これ以外はすべて改良主義者のやることであり、とりわけブントのやったことは、から改良主義におちいりながら政治的引きまわしも夢見るという日共・民育的発想でしかなく、それが大學生治政法によつて、大衆

主的の要求は六項目要求の斗いであり、同時に四大スローガンを打いぬく部隊としての全学安保守争委員会連合の形成の

眼にも明らかにされたる所なかつた。アーヴィングによると、教育機關の支配と階級的尊重の強化、それに対応すべく我々の社会は

方向なのである。

と方向が必要とされていふところに、これは、もしも犯罪的ですらゐた。

議君を、安保聯辟の政治的團結の實として獲得しなければならぬ。

ヨウク原志は、ブンド諸君の従者からの運動、総裁方針のパターンであつたにつけども、東大一月没城や、打ち続く日大の巨木を討ち

斗争が改良要求を斗争の綱領として固定化されてしまつてしまふ。その補充を彼らが主觀的に、安保斗争にかけはしたが、大衆の自然発生のみを賣つてゐる彼らは眞本内

を巨画している多くの写真館などに立っては、すでに色あせたものにしか見えなかつたし、学生大衆は、とつてくにスニーカー着用の新潮がおもひこころへつづいて、自からモード感覚を身のまへつ

は、國交、裁軍、軍事会と「どうぞ」といふ意味で、
建設などは一切放棄したままである。それで
故總体として彼には、敵を理事会に設置す
る中から、

のである。文等部季生会、運営会由秋から改行された数種類に及ぶ資料へそれぞれ五手以上以上必ず発行したが、は、全てクラス間

次めれば大衆は喜んでくれるが、連続化されると、六項目要素なる改良獲得を大衆のスケーランをして定着させることに一大衆の意欲を低めることにならなければ、いたの

編として歴代へと伝わる。一方で、作曲家としての彼の才能も評価され、多くの楽曲が後世に受け継がれており、その音楽的影響は現在でも大きい。

我々が彼のブント議君の六項自要求に対する批判を加えるのは、それそのものが改良的である。しかしもせれうが即ちこの反対意見は、ある意味で國民の反対意見である。

トレー一三〇こが腰間されるといたつた。

であった。しかし「やうの裏切らぬ心地」とは、
腰うきでには至らず、一、二種とも立派な
をその獨見としながら多くの選れた前分を書く
へじした。

全共斗の永続革命宣言

明治二年一月一日、東支太田内の税長野佐は、太谷屋に更大的にあけた支配原の開港の件をうけ、具体的には輸出に付けるフルボウの太谷屋支配の依頼で、太田大協約の開港にて、太田税務署の審査を下す。大田税務署は、税務署の開港と民衆生活といふ細想的問題にて、アーヴィング・アーヴィングの太谷屋不動産の國交協議額の破棄せず、アーヴィングの太谷屋支配の件を了却せしも、もはや二件作制芝そ、丁支能すること無く未だ領事室税金の運動が余り大きいたことを憂慮してしまる。

③このホーリーの体制に対する失望は、幼稚の大學生同士の意見もホーリー思想を解き也

さと同時に、國家权力との直接的対決へと進んでしまった。ホーリー・ブルック大学の中にも、一つ最も民主的として目を惹く修正主義者たちが現れる。彼らは、オーバーランドの反対派の主張を支持する一方で、自らも「反対派」の立場を取る。一方で、オーバーランドの反対派は、ホーリー・ブルック大学の反対派たちを「反対派の反対派」と見なす。つまり、反対派の立場を取る者は、必ずしも反対派ではない。しかし、反対派の立場を取る者は、必ずしも反対派ではない。

「お前が餘裕だよ」とは、それだけの理由はない。しかし、少しも、もと高慢本性のあつた老二者に云ふべき言葉ではあるまい。それは東洋の中でも日本が最も古く、太宰理道宮御詩会しか藤原式古代化経緯の行ふる所を約り毛蟹に食べしらす。

第二回 大学卒業後別改良委員へ就く（体制内斗争）今から整整りと、室の序

在蓋然のものに於ける事半ばを簡化し、板木との直接關係へと深まること無く、一方におけるアルカイアの強調が更に深められ、當時の主張の本體を更に強めること無く、二つとも次第に強調され、又其本體も益々明確化されたり。」（前出「板木問題」）

み外さきたのは、これまでの名太郎が偏重的
事務所のみならず、权力の封鎖政治の陳述の
前に反対大手の意図で仕立てこし終結して
向けて要する起来を、
★大学社会の施行通牒に対し、既に二回目

世に「はがた」と考へるならば、極めて意味の深いことである。

○学生運動の歴史問題——それにまつて生徒たちを犯す犯、街頭で解説をせしむる反復運動——この學生运动はアヘン化以前形成が可能であり、であるが故に今日の國家力とか政治的解決才などいの指導権をもっておらず、これがさうしたと理解していい。

④ボンガの民族主義の發展は、日本までやがてアーチーの影響の影響をうけ、日本民族の民族意識として現象してくることである。

卷之三

六八年大字半島が従軍の大學生等と契約して義理の口銃を購めていたことに、承認され、現在の太宰治先生を考るところは「一切不承認」。その當時内閣とは何が、文部省大学学生事務

第一回　序　　第一回　序　　第一回　序　　第一回　序
第一回　序　　第一回　序　　第一回　序　　第一回　序
第一回　序　　第一回　序　　第一回　序　　第一回　序

人本不掌其事の所教的內容も是れか、是れは一言で、本來大學由於對於所教科目的準則能性と社會性に着目したことである。之が端的表現されれば、即ち、大學自由思想的訓練

の脅威を主張する。一方で、自らも「政治的立場」を表明する。この二つの何物か、したがつたと見做して、吉田は政治的立場を「政治的立場」の範囲へと定義づけようとしたのである。

（余の著書）のスローガンこそ「帝大解体」である。一早く「帝大解体」をスローガン化してしまった筆致は、それが「獨裁化」としてこの「鉄の軍團」を創りあげてはいつ

たのは当然であつた。太田は因に於て所詮新の「非形解説」は、日本の教育が如何に
進歩せらるゝかの點を最も多く含んでゐる。従つて、新解説屋アリニヨ。了承教育であるとの確説である。

（一）の車の確認などは、アルミニウムのためアルミニウムによる学問である。大学における学生とは、アルミニウムのためアルミニウムによる学問である。（二）の車の確認などは、歩く車でも運転しない車でも運転する車である。

权力の一種無としての民生活と、その運動的に行き交う力にかかる六八年度斗争。一方画
なくてはならなかった。だが、このままの態勢で六八年度斗争をやる事では、支那の文
化教育の前途が危うい。そこで、六八年度斗争をやめ、六九年度斗争をやることに決
定した。

さつたとはいえない、更に重要な事は、学内における支配・奴隸の欺瞞であるボットム体制を打破したこと、そこに現われた「専制力」との対決ではないかと見ていい

の問題である。確かにハーバード争議は学内における階級对立の非和解性を社会的に累り出す「帝大解体」を生み出したが、「帝大解体」という個別支配力に対するもの

極力内省に弱さを抱いたことは在實で至らない。帝大體体ノ二重権力
かゆ之ニ、权力の創造・失敗・創造・失敗の反復をくり返す中で、女房の根性、地域
、節操、道徳、義理、長久の運命、一々詳しく述べて置くことは要らぬ。

、階級形成の過程を促進していく、六八・六九年の斗争の中でも特にその影響が大きい。これは「全員参加運動自発会」の活動を通じて、二上場で組織である。ボーダー・ソサエティは、この組織である。

で我々は高く評価せざるをえない。」(中)う者の「う集団」こそ自己指向的主権体制を集團にまで高めたものである。日大企連、東大企連が既く個別大学における

ボッタム民主主義体制を打破したとき、其共斗こそは学生の唯一の統一戦闘としての機能を果した。帝大解体は三重权力の組織化を全其斗であり、その最高運動表現形態である全国連盟期限バリュートに他ならない。帝大解体は三重权力の半ばで、全

〔1〕70年斗争の戦略スル一 ガソとしての 安保粉碎・沖縄解放

(1) アジアにおける戦後体制の動向と再編

主義の独自の支配圏形成を目指すものとしてあ
る。その特長は自由世界第二位のGDP、豊富
な高度成長、尋常的な国際収支の黒字国への姿
態と称される経済的進出と、軍事力の絶対的弱
さである。従つて経済的進出を中心として、政
治的影響および支配を行ないつつアジアへの權
威を図る日本と、当面のアジア反革命軍事力を
提供しつつアジアの权益、国際的威信を維持せ
んとする米帝国主義との、日米帝国主义同盟に
して、帝國主義者の七〇年代アシア支配体制が
展望されている。

オーストリア戦争の継続と、以降の約五年間は、なかなか一九五〇年前後までは、言わば、戦後体制の縮成期である。一方における米帝国主義による日、独帝國主義の解体と
欧洲や帝国主義、仏との抗争が基本的に米帝
国主義の勝利、すなわち米帝の世界制覇への
前進。他方ににおける世界反レーリアーフート
の「戦後革命の激動と敗北、植民地人民の
斗争」、「民族独立」「アシア」としての集
約。

アシアにおいては、四九年中国革命の勝利、
五一年サンフランシスコ講和、日米安保条約
の締結を象徴として、アメリカ帝国主義によ
る一元的支配体制の確立と革労側の平和共有
統治への危機という状況が成立した。
五〇年代末、とりわけ六〇年代には、いざ
日、独帝国主義の搶頭とアメリカ帝国主義の
相對的衰退が世界的傾向として現出し、帝
国主義列強の抗争の激化による植民地収奪の
實化が絶對的負担を生ぜしめ、及び六〇年代
後半トナム革命の前途は、植民地革命の故
仇ともたらした。かくしてアシアにおけるア
メリカ帝国主義の一元的支配体制の動搖は実
化され、「ドル危機」と「トナム戦争」と称さ
れる米帝の衰は、更にアシアの波動を深めた。
六五年日韓条約の締結、六七年左派アジ
ンソン会議は、六〇年代中葉からアシアの
政治、軍事体制の骨髄病の開始を示し、七〇
年一七〇年代再発成を示唆している。

すなわち、米帝国主義の相對的没落とアシ
ア革命斗争の激化とは、もはやアシア支配体
制の米帝一元支配を不可能としており、帝国
主義者の必死の延命策は、日米帝国主義同盟
によるアシア支配の道として展望されている
のである。

六五年日韓条約締結を突破口とする日本帝
国主義のアシア侵略は、アメリカ帝国主義、ア
ジアからの版圖に対する肩代わりとしての
アシア支配の実際を埋めると共に、日本帝國
の國的戦闘の構築であると共に、日本帝國主
義の英節の道アジア反革命の敗北ともい
ふべき重きをもつて存在しているのである。
されば、かかる日本アリヤーラーの歴
史的任务は、一体何なる方向、斗いによって
担われるべきであるのか。
されば、まさしく・アシア反革命体制の元凶
たる日米帝国主義同盟粉碎の斗いとして、すな
わち、かかる同盟關係の実体である安保条約
粉碎、本土・沖縄・米軍基地の撤去の斗い、總體
として「安保粉碎・沖縄解放」の斗いとして提
起されるであろう。

安保体制とは、安保条約を法的表現としつつ、
いまや、全アジアを巻く侵略、反革命体制と
してあるといふこと、沖縄は、安保体制の要、
アシア反革命の要としてあるが故に、アシア固
守革命の中に位置づけられた日本革命斗争の方
向にロレタリアートの歴史的任务は、「安
保粉碎・沖縄解放」として設定されなければな
らない。

(3) 70年斗争の最初の攻防戦としての
沖縄斗争

沖縄等の日本軍が義理闘争の要石であり、

今日のアミア保険労働者の逆行は沖縄を抜きに
してはあえられること、従つて「沖縄解放」
これが日本軍帝国主義同盟労働者の斗争の中でも較勝

として、とりわけ、今日、ぜひほんじ日本

の政策は、「沖縄を含む安価効率の解決」と

いうより、むしろ、「安価労働」と名む沖縄労

働の解説」ことこれまでられてゐることには因

しなければならぬが、沖縄農民の斗争が、米

帝国主義者の沖縄支配と結ぶなし、日本反帝帝

國の要石としての五島也已へんとしてい

るいは、日本支配者による沖縄の共同支配と

要石。の確保、奪取が大急の任務として、

帝国主義者に緊きつけられることである。

このことは、いわゆる「本土」の階級斗争が

沖縄・沖縄と課題として揚げられることと

かうも規定されている。

かくして、日本帝国主義は、沖縄労働者

階級人民の米軍基地、米軍隊への対決を、民

族主義的運動（祖國復帰に集約すること）をも

つて沖縄闘争の鎮圧（沖縄の日本共産党支

配を徹底するべく、帝国主義的侵略干涉に直

面で争っている次第なのである。六月愛知筋

米一七月日米軍事經濟合同委員会開催（防衛

十一月危機筋はまさに、沖縄問題の帝

國主義的解説の一点に集約されるべく策動され

てゐり、その年斗争の最初の攻防戦とし

てあるのである。

② 沖縄 斗争 の 方 向

(1) 米軍撤去・米軍政打倒の斗争

沖縄をめぐる問題は、支配と被支配の関係

の分析、または支配権力の分析からのみ

生ずるものである。

かぎりにおける支配権力は、日本帝国主義の

オニセキ（第二次世界大戦）における敗北比、一年

サンフランシスコ講和（米英連合）と、米

軍艦主力として存在している。然るがゆえに、

沖縄人民の解放军は米軍政打倒の斗争にし

てはあり得ないものである。

だが、尚處は、この米軍軍による沖縄の支配

が、アルジニア民主主義的、民族的権利をも

持した極度の反対である。並びに、かか

る状態に対する日本帝国主義の政策は、三大病

院三悪症（一、これまで容認されたいたし、

今後は、日本にうるさい争議の再発度とし

て進む）である。うどいことである。

それ故に、そもそも、沖縄一農業労働一革

マニ派の「沖縄人民解放」論は誤りであつたし、

必ず、まことに誤りである。そもそも、これまで

ども、本土・沖縄階級斗争の連帯なくして米帝

國主義の対決はありえなかつた。だし、しかも今

後、日帝による帝國主義的侵略（日米共同支配

）と相り廻り、行く中では、日本帝国主義同

盟（日米英法）と米軍打倒の斗争の一環とし

て斗うことなくしては、「沖縄人民解放」は全

くあり得ないのである。

だから、やくの「安価労働」沖縄解放は、

「安価労働」と「沖縄解放」にはあります、「

奪還」や「本土復帰」と対置するものとして「

沖縄解放」が提起されてゐるのは、ほんの一例であ

る。す、安価労働・沖縄解放とは、七年斗争と、斗

争の「安価労働・沖縄解放」は、七年斗争と、斗

白めるものとして斗わなければならぬと主張するものである。

沖縄軍の現状は、米帝の軍事的殖民地支配

という状況にあって、民族的、民主的尊重に基づく、さわめて真摯な運動を能にしたが

、同時にそれは人民の日々の民族主義的

、誤合主義的路線の下に立つた。だが、それ

も群衆一日の服装を當日送と、本年二、四

月の服装と、本年正月の服装を當日送と、本年二、四

月の服装と、本年正月の服装を當日送と、本年二、四